令和５年度　江戸川区立東小岩小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子どもたちが「学校が好き」「学ぶことが楽しい」「友達が大切」と思いながら、生き生きと充実した学校生活が送ることができる学校 ・自分の資質・能力で、自分の未来を広げることのできる児童 ・協働して問題解決にあたり、授業力・学級経営力を高めようとする教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞　新型コロナウイルス感染症対策を講じ、学校、家庭、地域で連携して感染防止に努めることができた。 開校70周年に関係する学校行事を、PTA、地域と連携し、祝う会、実行委員会を通して円滑に進めることができた。 ＜課題＞　コロナ禍における教育活動制限の中、「関わりの中で考えを広げていく」ことを行ってきたが、最適な方策が見つからなかった。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・充実 ・「新しい学び」の実践、データサイエンス教育の充実、外部人材の活用、iPadの日常化 ・教員の専門性を活かした教科担任制の実施 ・ベーシックドリルやパライシードを活用	・全学年で外部人材との協働学習を1回以上必ず実施する。 ・非認知能力もルーブリック評価で分析 ・ベーシックドリル診断テスト正答率70％以上 ・ドリルパークを年間200回実施	A	A	○外部人材を取り入れた授業を1回以上実践できた。 ○研究授業を中心に、ルーブリック評価を取り入れた授業を行った。 ○ベーシックドリル診断テストは、平均正答率が71.8％であった。 ●ルーブリック評価がまだ不十分である。	A	外部人材など、幅広い人材から学ぶことは、子どもたちの興味・関心の刺激となり、大切なことだと思う。	外部人材の活用は継続していく。 ジグソー法を用いた授業を積極的に取り入れていく。 ルーブリック評価について継続して研修する。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・全学年で12時間を本を活用した調べ学習に設定し、探究的な学習を行い、「本を活用した調べる学習コンクール」へ応募する。 ・朝読書を各教科の学習につなげた授業を実践する。	・「本を活用した調べる学習コンクール」へ、全ての児童が参加する。（12時間） ・小岩図書館と連携し、多様なジャンルの読書活動を推進する。（23時間） ・朝読書と各教科をつなげる単元を設定する。	A	A	○「調べる学習コンクール」に取り組むことで、ただ読むだけでなく物事を知るために本を活用できることを体験的に理解する機会になっている。 ○低学年では月に一度、学校司書による読み聞かせを実施した。月ごとにテーマが違い、多様なジャンルの本に親しむことができ、子どもたちの読書活動の推進につながった	A	インターネットだけではなく、本から探したり、調べたりする経験も大切なこと。直接本に触れる機会を増やし、意識的に取り組むことは大切だと思う。読書（インプット）したことが、実践（書く・作るなどのアウトプット）につながると素晴らしい。	学校図書館の整備を継続する。 学校司書は、来年度は週1回の勤務になるので、読み聞かせなど更なる連携を図る。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・校庭・体育館使用を学年ごとに割り当て、運動量を確保する。	・長縄記録会や学年合同での運動遊びを年間35回以上行う。	A	B	○縄跳びチャレンジや大縄チャレンジ、リレー大会など、定期的に子供が運動に取り組む機会が保障されており、子供たちも意欲的に活動していた。 ○運動あそびの日を設けることで、学級の仲がよくなったとともに、普段休み時間に体を動かす機会が少ない児童も楽しく取り組むことができた。	B	限られた環境の中でできることに取り組んでいてありがたい。縄跳びを活用した基礎体力作りは大切だと思う。	休み時間の見守りを継続する。安全に十分配慮しつつ運動量の確保・体力の保持、増進を目指す。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育コーディネーターが中心になり管理職、学校医、巡回指導教員の連携のもと、特別支援教育を進める。	・特別支援打合せを毎月1回実施する。 ・特別支援研修会を年3回実施する。 ・当該児童が挙がった際には校内委員会を開催する。	A	B	○特別支援打ち合わせを毎月1回実施し、共有が図れた。 ○中学校の特別支援教室につなげたり、新1年生の児童をつなげたりすることができた。 ●研修会を十分に実施することができなかった。	A	これからも巡回指導の先生方と連携して、児童の育成をしてほしい。グレーゾーンの子にも、より良い支援と見守りがなされることを願う。	特別支援教育に関するOJTや研修会の充実を図る。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・いじめアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。 ・関係機関との連携をとって、児童の健全育成を行う。（児童相談所、小岩警察署）	・週に1回、全職員からの報告を行う。 ・各学期に1回いじめアンケートを行い、いじめ・不登校を0にする。 ・虐待等案件の早期対応を図る。	A	B	○いじめアンケートを実施することで、トラブルを早期発見し、早期解決をすることができた。 ○定期的なアンケートや聞き取りを行うことで、問題が小さい間に解決することができた。	A	早期対応はとても大切だと感じる。引き続き早期対応をお願いしたい。	SCと連携した相談体制の継続と、関係機関との連携を継続する。 SNSの利用を含む情報リテラシー教育を充実させる。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校ホームページにて情報を発信し、保護者、地域との連携を図る。 ・学校公開時にアンケートを実施し、授業改善につなげる。	・週1回以上、学校ホームページの更新を行う。	A	A	○ホームページの更新が高頻度で行われ、学校の様子がよくわかる。（1/15日時点で203回更新）	A	HPの更新が頻繁なので、学校の様子がよくわかる。今後も積極的な発信を希望する。	学校ホームページの更新を今後も継続して実施する。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会や保護者アンケートを実施し、学校の取り組みへの評価、検討を行う。	・保護者アンケートの肯定的意見を80％以上にする。	A	A	○大きな行事の後に保護者アンケートを実施し、改善につなげた。 ○紙面だけでなくtetoruを活用してアンケートを実施することでより多くの意見を聞くことができた。	A	アンケートによって、見えなかったことや把握しきれなかったことが見えてきて、改善につなげることは良いこと。今後も協力させていただきたい。	学校評価を適切に活用し、教育活動の改善を進める。 学校評議員会で、学校の様子について確認・評価をしていただく。
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を行う。	・月の時間外勤務が45時間を超える教員を0にする。	A	A	○月の時間外勤務が45時間を超える教員はいなかった。 ○SSSを有効に活用したり、学年で仕事を分担したりすることで、効率よく仕事を行うことができた。	A	先生方が時間内で勤務するという意識をもたれていることがよく伝わってくる。今後も継続して頑張っていただきたい。	働きやすいように職場環境を整えていく。時間外勤務時間が長時間にならないよう全教職員が働き方改革の意識をもつ。
	＜挨拶・会釈の定着＞ ・児童が自ら進んで挨拶できるようにする指導の充実	・地域と連携した「あいさつ標語コンクール」に取り組み、意識を高める。 ・日頃から教職員が率先して挨拶を行い範を示すことで児童の意識を高める。	・あいさつ標語の作成に、全ての児童が参加する。 ・児童アンケートで、「すすんで挨拶をすることができた」という肯定的な回答率を80％以上にする。	A	B	○毎朝、教室で児童を迎えることで、気持ちの良い挨拶ができる児童の育成に努めた。 ●挨拶をする習慣がまだ身に付いていない子が一定数いるので、日々の学級経営の中で指導をしていく。	A	挨拶は地域の協力もあって、身に付きつつあるように思う。継続が大切なので、特に高学年の子がお手本となって、下級生に良い挨拶を示してもらえるとよい。	地域に根ざした人づくりのため、「あいさつ標語コンクール」「街角ギャラリー」の取り組みを今後も継続・発展させる。
	＜キャリア教育の充実＞ ・ゲストティーチャーや外部人材を活用した問題解決学習の推進	・ゲストティーチャーや外部人材を招いたり、オンラインを活用したりした出前授業を実施する。	・ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を全学年で年3回以上実施する。	A	A	○ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を計画的に実施することができた。	A	ゲストティーチャーの活用は、今後も続けてほしい。「生の声」を多く取り入れることは、とても良いことだと思う。	今後も引き続き、外部人材を活用した出前授業を実施していく。次年度に向けても引き継ぐ。